

## 大学祭 そして コモンズセンター



中部大学祭 模擬店の様子

みなさん、こんにちは。

暦のうえでは『冬』ですが、ネットの情報によると最低気温は17度で日差しが眩しく、最高気温は23度と高めで暑く感じました。11月1日、2日、3日は中部大学の大学祭でした。今年が52回の大学祭です。素晴らしいことに、創立以来連続と続いていることになりました。先輩から後輩へ受け継がれた伝統の重みを感じ、それを支えてきたスタッフの努力に心より敬意を表したいと思います。残念ながら、今年度はコモンズセンターとして大学祭に関する事はできませんでした。今後の課題として、次年度の準備をしたいと考えています。では、以下に私の私的な大学祭報告をしたいと思います。

大学祭初日(11月1日)には、ホームカミングデーが同窓会のお世話により開催され、多くの卒業生が母校に帰って来てくれました。私の所属する学部はまだ10年しか経っておらず、卒業生を輩出して6年です。特にスポーツ保健医療学科は1期生からの卒業(53名)です。それでも、3人の卒業生が学科の会場に訪れてくれ、嬉しかったです。社会に出て半年が経過した卒業生の活躍ぶりを聞いて、さらに嬉しい気持ちになりました。卒業生同士が大学生活を回顧して、半年前までのことを懐かしく話している姿は美しく、暖かい気持ちになりました。

さらに、驚くべきことは、大学祭期間中の3日間結構な頻度で電話がかかって来たことです。多くの卒業生が、分散して大学に戻って来てくれました。スマートフォンの着信履歴を見てみましたが、その電話の数に驚いています。学部学科を越え、学生時代にフレッシュマンキャンプや陸上競技部などで関った他学部の卒業生からも「先生、学祭に来ています。大学にみえますか?」と連絡をもらいました。中には結婚して生後7カ月の子どもを連れて来てくれたTちゃん(男性)や婚約者と共に来年2月に結婚すると伝えてくれたWカメくん、大阪で頑張っているTくん、かまぼこを作っているGくん、保母さんのKさん。まだまだたくさん卒業生に久しぶりに会うことができました。会って話を聞く上で、様々な人生の一端(それぞれの時と場所での頑張り)に触れることができ、人生の機微に触れるひとときでした。



ホームカミングデーの餅つき



ホームカミングデーに来てくれた1期生



皆で記念撮影



8(6)時間自転車耐久レース スタート前



イベントを支えるスタッフたち

11月2日、午前中は出張でしたが、15時頃に大学に到着。この日は恒例の「8時間自転車耐久レース」が開催され、学科の学生も多く出場しているため、応援です。あいにくのお天気でしたが、キャンパスは学生たちの熱気に包まれていました。徐々に天気が回復し、8時間自転車耐久レースは開始を2時間遅らせての開催だと知り、ワクワクしたのを覚えています。午後6時のスタート。栗濱学生部長によるスタートの号砲ならぬ号声で「(8耐ならぬ)6耐」の熱い闘いが始まりました。大きな事故無く自転車レースがフィニッシュを迎え、参加者たちの疲労の中にも満足そうな顔と、6時間を共通の目的に向かって闘った仲間への尊敬。さらに、自分を素直に表現できる人間関係や信頼感を再確認できたであろう姿を見て、胸が熱くなりました。

また、このイベントを裏で支えたスタッフの努力にも拍手を送りました。スタッフにも多くの関係学生が居り、ご苦労様の意味で声をかけました。多くのスタッフが大学の支援に対して感謝していました。また、迷惑をかけて申し訳ないと言っていました、その心遣いにあらためて感心しました。

大学祭期間中は模擬店にも注目です。模擬店にはcommonsサポーターの姿も見かけ、楽しそうな姿を見ることができました。大半のお店に顔見知りの学生が居り、買わずにはられない状態(いや、『買ってオーラ』の空気感)が半端無かったです。新手のカツアゲとでも表現するのが正しいのかも知れない程でした。チョコバナナは1年分くらい食べたのでは無いでしょうか。トクスープや焼うどん、おでん、チジミ、…。食感や味はなかなかのものでしたが、コレステロールが気になる私の身体には脂肪と砂糖にまみれた食べ物は危険が一杯でした。

今回の大学祭は、自分を励まし支えてくれる「素晴らしい思い出」が心に残る、そのような大イベントだったと思います。今回の経験は、まさしく人間力の育成だと思います。大学祭が終わったこれからは、commonsセンターで人間力の育成をお勧めします。

最後に、インフルエンザの流行が、早ければ11月下旬にも予想されます。どうか体調管理に留意して、大学生活を送ってください。

commonsセンター長 伊藤 守弘